

資料—3

尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

1. 尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）の内容

令和2年1月14日

尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 事務局

尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

- ・管理開始から7年が経過し、地域活性化方策の検討・実施は地元から関係団体に移行していることから各種イベント、地域づくり等を行う団体・組織で構成される「さくらおろち湖ネットワーク会議」と「さくらおろちを活性化する会」を統合しビジョンの更なる発展を図りたい

尾原ダム 水源地域ビジョン

後期版

つなげよう、育てよう、活かそう
“さくらおろち湖”



平成31年1月

尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会

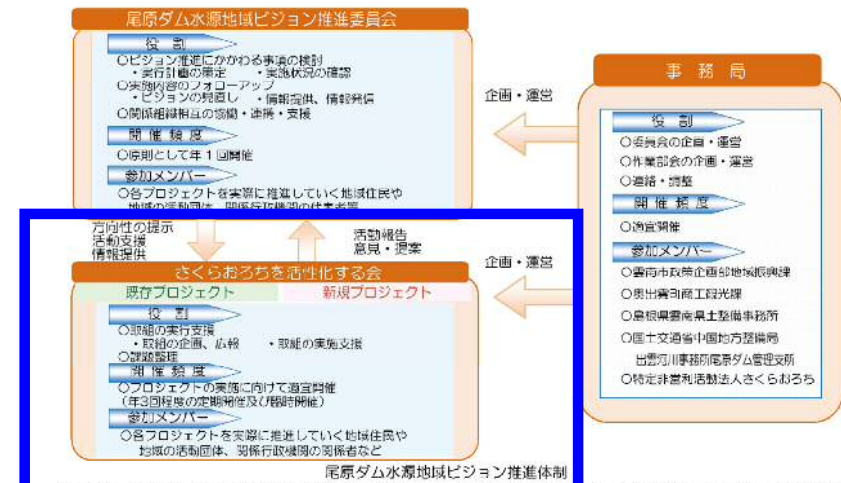
4 推進体制と推進方法

推進組織

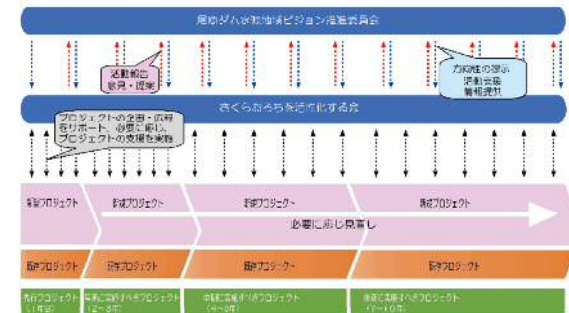
尾原ダム水源地域ビジョンの着実な実施のためには、地域住民等への情報提供や、理解と協力の呼びかけを行うとともに、関係組織相互の支援を働きかけ、協働・連携を実施しながら、状況や水源地域の満足度等を確認するなど、必要に応じてビジョンの修正・追加等を行うフォローアップが不可欠です。

そのため、「水源地域ビジョン策定要綱」第7条に基づき、水源地域活性化の着実な実施と関係者間の役割分担、連携・協力を円滑に進めるためのビジョン推進組織を設置します。

尾原ダム水源地域ビジョンの推進組織は、ビジョン推進にかかる事項の検討と実施内容のフォローアップ、関係者間が役割を分担し、協力・連携してビジョンを推進していくための連携組織としての「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」と、プロジェクトの実行支援や課題の整理等を行う役割を担う「さくらおろちを活性化する会」の2組織で構成します。



各プロジェクトは、順次に対応して段階的に進捗適宜フォローアップを実施します。実施状況については、積極的に広報を行っています。



尾原ダム水源地域ビジョンのプロジェクトの推進イメージ

尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

現状	
水源地域ビジョンの実現 意思決定 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 (地元組織の長、学識者、行政機関の長) 年間事業の実施 さくらおろち湖ネットワーク会議 (イベント、地域づくり等を行う組織等) さくらおろちを活性化する会 (地元住民組織、地域活動組織、地元NPO等) 事務局会 (行政機関、地元NPO法人さくらおろち) 水源地域ビジョン 関係団体等の連携を図ることを目的に平成27年に組織 地元と関係団体が分離	
概要	尾原ダム水源地域ビジョンの推進組織は、ビジョンの推進にかかる検討と実施内容のフォローアップ、関係者間が役割を分担し、協力・連携してビジョンを推進していくための連携組織としての「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」と、プロジェクトの実行支援や課題の整理等を行う役割を担う「さくらおろちを活性化する会」の2組織で構成している。 さくらおろち湖ネットワーク会議は、尾原ダム周辺施設の有効活用、さらなる地域活性化と交流促進を図ることを目的に平成27年に発足したもので、各種イベント、地域づくり等を行う団体・組織で構成されている。
さくらおろちを活性化する会の現状と課題	・管理開始から7年が経過し、地域活性化方策の検討・実施は地元から関係団体に移行している。 ・関係団体が実施するプロジェクトがあまりにも多い。ビジョンの効率的な運営を図るため、推進委員会への意見・提案を行う「さくらおろちを活性化する会」の体制を強化する必要がある。 ・今後も地域住民の意見を踏まえたビジョンであり続ける必要がある。

ビジョンの更新	
水源地域ビジョンの実現 意思決定 年間の方針決定 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 (地元組織の長、学識者、行政機関の長) ネットワーク会議と合体 新たなさくらおろちを活性化する会 連携した年間事業の実施 事務局会 (行政機関、地元NPO法人さくらおろち) 進め方等の調整 水源地域ビジョン	
提案内容	「さくらおろちを活性化する会」を構成する地元住民と「さくらおろち湖ネットワーク会議」を構成する関係団体が一緒に活動する「新たなさくらおろちを活性化する会」により、さらなる地域活性化と交流促進が図れる。

尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

更新前

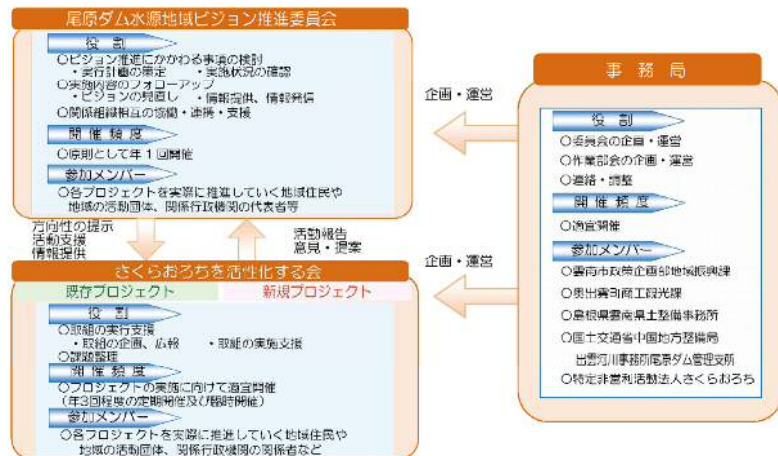
4 推進体制と推進方法

推進組織

尾原ダム水源地域ビジョンの着実な実施のためには、地域住民等への情報提供や、理解と協力の呼びかけを行うとともに、関係組織相互の支援を働きかけ、協働・連携を実施しながら、状況や水源地域の満足度等を確認するなど、必要に応じてビジョンの修正・追加等を行うフォローアップが不可欠です。

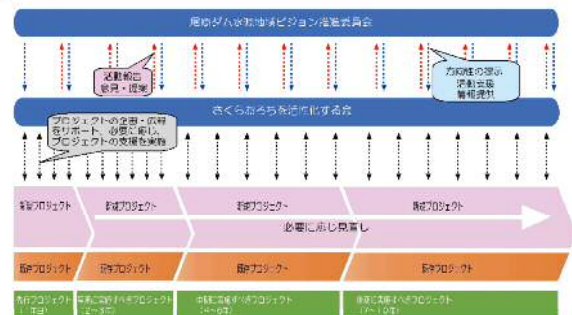
そのため、「水源地域ビジョン策定要綱」第7条に基づき、水源地域活性化の着実な実施と関係者間の役割分担、連携・協力を円滑に進めるためのビジョン推進組織を設置します。

尾原ダム水源地域ビジョンの推進組織は、ビジョン推進にかかる事項の検討と実施内容のフォローアップ、関係者間が役割を分担し、協力・連携してビジョンを推進していくための連携組織としての「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」と、プロジェクトの実行支援や課題の整理等を行う役割を担う「さくらおろちを活性化させる会」の2組織で構成します。



尾原ダム水源地域ビジョン推進体制

各プロジェクトは、熟度に応じて段階的に進捗フォローアップを実施します。実施状況については、積極的に広報を行っています。



更新後

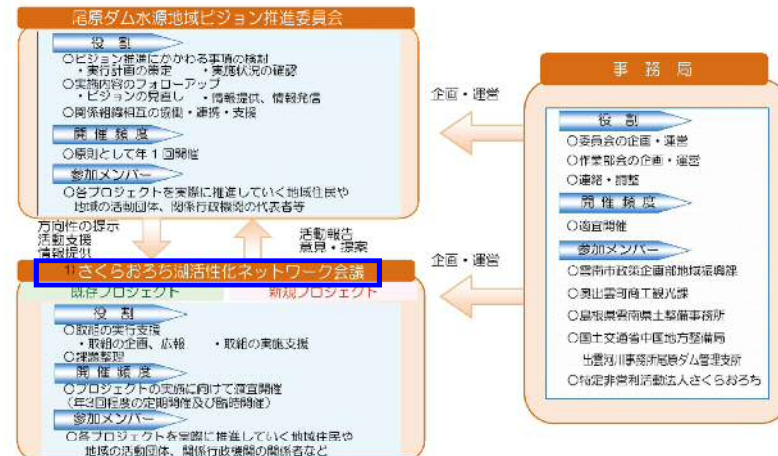
4 推進体制と推進方法

推進組織

尾原ダム水源地域ビジョンの着実な実施のためには、地域住民等への情報提供や、理解と協力の呼びかけを行うとともに、関係組織相互の支援を働きかけ、協働・連携を実施しながら、状況や水源地域の満足度等を確認するなど、必要に応じてビジョンの修正・追加等を行うフォローアップが不可欠です。

そのため、「水源地域ビジョン策定要綱」第7条に基づき、水源地域活性化の着実な実施と関係者間の役割分担、連携・協力を円滑に進めるためのビジョン推進組織を設置します。

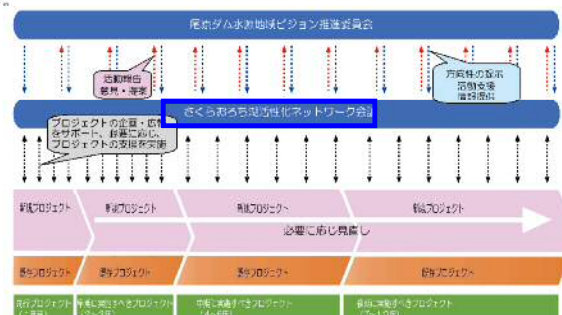
尾原ダム水源地域ビジョンの推進組織は、ビジョン推進にかかる事項の検討と実施内容のフォローアップ、関係者間が役割を分担し、協力・連携してビジョンを推進していくための連携組織としての「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」と、プロジェクトの実行支援や課題の整理等を行う役割を担う「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」の2組織で構成します。



1) 令和2年1月「さくらおろち湖を活性化させる会」より名称変更

尾原ダム水源地域ビジョン推進体制

各プロジェクトは、熟度に応じて段階的に進捗フォローアップを実施します。実施状況については、積極的に広報を行っています。



解説

「さくらおろちを活性化させる会」を「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」に名称変更

尾原ダム水源地域ビジョンの更新（案）

更新前

1 プロジェクトの進め方

平成 25 年度から、斐伊川流域圏の連携による尾原ダム周辺地域の自立的・持続的発展を地域的目標とした尾原ダム水源地域ビジョンに基づくプロジェクトに取り組んでいます。
プロジェクトについては、これまでの実施団体が引き続き推進していき、「さくらおろちを活性化する会」は必要に応じサポートしていきます。

2 フォローアップの実施

尾原ダム水源地域ビジョンに基づくプロジェクトは、「さくらおろちを活性化する会」で実施状況をとりまとめ、原則年 1 回開催する「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」において、フォローアップします。
「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」は、「さくらおろちを活性化する会」から、活動報告や意見・提案を受け、審議した後、「さくらおろちを活性化する会」に対し、方向性の提示、活動支援、情報提供を行います。
なお、審議の際には、効果の達成状況と地域住民の意向等を確認し、必要があれば、「ビジョンの修正、追加」等を行います。

3 広報計画

水源地域の活性化のための取組を支援するために、地域住民・流域の自治体・関係行政機関等への情報提供、活動への理解と協力の呼びかけ、プロジェクトの参加募集などの広報を行います。

【広報の目的】

- ◆積極的な広報を展開し、流域圏の交流や地域活性化の促進を図っていきます。

【広報エリア】

- ◆ホームページなどを活用した広報では、広く一般に情報を発信し、尾原ダム水源地域への来訪意欲の向上を目指します。
- ◆「尾原ダム便り」などの紙媒体を活用した広報では、斐伊川流域圏を念頭に配布等をするとともに、尾原ダムへの誘客が想定される圏域（大田市、三次市、庄原市など）にも情報発信を行うことで交流を促進します。

【具体的な広報媒体】

- ◆多様な広報媒体を活用し、「尾原ダム水源地域ビジョン」を PR します。
 - (1) 関係機関等のホームページ
 - (2) 「尾原ダム便り」による活動内容の告知・報告
 - (3) 公報の活用（雲南市、奥出雲町、島根県）
 - (4) 地域イベントとの連携
 - (5) 地域マスメディアを通じた広報
 - (6) 飯南町、斐伊川下流自治体における関連イベントでの PR ブースの設置等
 - (7) ソーシャルネットワーキングサービスの活用
 - (8) その他、効果的な広報媒体の活用

つなげよう、育てよう、活かそう
“さくらおろち湖”

基本方針の「①水源地域を結び、拓く」を「つなげよう」で表現、「②流域圏の恵みの源を守り、育む」を「育てよう」で表現、「③さくらおろちの魅力を磨き、活かす」を「活かそう」で表現、対象地域である「さくらおろち湖」を添えました。

尾原ダム水源地域
ビジョン推進委員会
事務局

雲南市政策企画部地域振興課
〒699-1392
島根県雲南市木次町里方521-1
電話（0854）49-1013
奥出雲町商工観光課
〒699-1592
島根県仁多郡奥出雲町三成 358-1
電話（0854）54-2504

島根県土木部斐伊川神戸川対策課
〒699-8501
島根県松江市殿町 8 番地
電話（0852）22-5088
島根県雲南県土整備事務所
志津見ダム・尾原ダム対策スタッフ
〒699-1396
島根県雲南市木次町里方 531-1
電話（0854）42-9522

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所尾原ダム管理支所
〒699-1342
島根県出雲市木次町平田211-5
電話（0854）48-0780
特定非営利活動法人さくらおろち
〒699-1342
島根県雲南市木次町平田36-1
電話（0854）48-9050

更新後

1 プロジェクトの進め方

平成 25 年度から、斐伊川流域圏の連携による尾原ダム周辺地域の自立的・持続的発展を地域的目標とした尾原ダム水源地域ビジョンに基づくプロジェクトに取り組んでいます。
プロジェクトについては、これまでの実施団体が引き続き推進していき、「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」は必要に応じサポートしていきます。

2 フォローアップの実施

尾原ダム水源地域ビジョンに基づくプロジェクトは、「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」で実施状況をとりまとめ、原則年 1 回開催する「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」において、フォローアップします。
「尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」は、「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」から、活動報告や意見・提案を受け、審議した後、「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」に対し、方向性の提示、活動支援、情報提供を行います。
なお、審議の際には、効果の達成状況と地域住民の意向等を確認し、必要があれば、「ビジョンの修正、追加」等を行います。

3 広報計画

水源地域の活性化のための取組を支援するために、地域住民・流域の自治体・関係行政機関等への情報提供、活動への理解と協力の呼びかけ、プロジェクトの参加募集などの広報を行います。

【広報の目的】

- ◆積極的な広報を展開し、流域圏の交流や地域活性化の促進を図っていきます。

【広報エリア】

- ◆ホームページなどを活用した広報では、広く一般に情報を発信し、尾原ダム水源地域への来訪意欲の向上を目指します。
- ◆「尾原ダム便り」などの紙媒体を活用した広報では、斐伊川流域圏を念頭に配布等をするとともに、尾原ダムへの誘客が想定される圏域（大田市、三次市、庄原市など）にも情報発信を行うことで交流を促進します。

【具体的な広報媒体】

- ◆多様な広報媒体を活用し、「尾原ダム水源地域ビジョン」を PR します。
 - (1) 関係機関等のホームページ
 - (2) 「尾原ダム便り」による活動内容の告知・報告
 - (3) 公報の活用（雲南市、奥出雲町、島根県）
 - (4) 地域イベントとの連携
 - (5) 地域マスメディアを通じた広報
 - (6) 飯南町、斐伊川下流自治体における関連イベントでの PR ブースの設置等
 - (7) ソーシャルネットワーキングサービスの活用
 - (8) その他、効果的な広報媒体の活用

つなげよう、育てよう、活かそう
“さくらおろち湖”

基本方針の「①水源地域を結び、拓く」を「つなげよう」で表現、「②流域圏の恵みの源を守り、育む」を「育てよう」で表現、「③さくらおろちの魅力を磨き、活かす」を「活かそう」で表現、対象地域である「さくらおろち湖」を添えました。

尾原ダム水源地域
ビジョン推進委員会
事務局

雲南市政策企画部地域振興課
〒699-1392
島根県雲南市木次町里方521-1
電話（0854）49-1013
奥出雲町商工観光課
〒699-1592
島根県仁多郡奥出雲町三成 358-1
電話（0854）54-2504

島根県土木部斐伊川神戸川対策課
〒699-8501
島根県松江市殿町 8 番地
電話（0852）22-5088
島根県雲南県土整備事務所
志津見ダム・尾原ダム対策スタッフ
〒699-1396
島根県雲南市木次町里方 531-1
電話（0854）42-9522

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所尾原ダム管理支所
〒699-1342
島根県出雲市木次町平田211-5
電話（0854）48-0780
特定非営利活動法人さくらおろち
〒699-1342
島根県雲南市木次町平田36-1
電話（0854）48-9050

解説

「さくらおろちを活性化する会」を「さくらおろち湖活性化ネットワーク会議」に名称変更